

調査研究課題名 「「需要」側からの科学技術政策の展開」
代表者名 「政策研究大学院大学教授 丹羽富士雄」
中核機関名 「財団法人 政策科学研究所」

調査研究の目標・概要

1. 目的

高度に科学技術が浸透した社会で「社会のための、社会の中の科学技術」(第2期科学技術基本計画)を育むには、従来専ら進められてきた「供給」側からの政策展開にとどまらず、「需要」側からの本格的な政策展開が求められている。海外では既に多様な試行が重ねられつつあるが、我が国では未だ社会的認知も乏しく萌芽的分散的な試行にとどまっており、今後重要化する政策課題に対応した手続き的正当性と内容的妥当性を高めた政策過程として構想されていない状況にある。

本調査研究では、科学技術政策において「需要」側からの政策展開の必要性と意義を整理し、政策過程全体の中での適正な位置づけを図るとともに、先行事例を分析することを通じて、我が国で政策が社会的に形成される制度や機能条件等を分析・設計し、また多元的な政策アクターが関連する過程を支援する研究開発課題を提起し、行政の施策や関連アクターに関する提言を行うことを目的とする。

2. 内容

本調査研究は次のような内容から構成される。

- ・ 「需要」側からの政策展開の課題と展望の調査
- ・ 「需要」側からの政策形成・実施の先行的な内外事例調査
政策マーケティング、パブリック・コンサルテーション、アクティブ・パ
ティシペーション、社会実験・社会的調整・社会的ネットワーキング
- ・ 「需要」側からの政策展開を支援する制度のシステム・モデル設計と社会実験
- ・ 「需要」側からの政策展開過程を支援する知的ツール(分析・設計)の開発
- ・ 「需要」側からの政策展開の支援政策等に関する提言の検討

3. 俯瞰的・融合的視点

本調査研究自体が俯瞰的視点から構想されているが、内容として、科学技術政策において新たな質をもつ政策領域(生活者コミュニティの公共ニーズ領域等)と政策過程(多元的アクターの関与や社会的「最適化」等)を扱うことから、自然科学のみならず人文・社会科学の視点をも含めた俯瞰的・融合的な分析と設計を行う。

4. 一般からの意見の反映方法

本調査研究は、その目的自体が社会・生活者コミュニティ等からの意見の反映の改善に係るものである。これは、調査方法においても留意される。

- ・ メディア出身委員等の推進委員参加と助言、・ NPO・消費者団体との交流
- ・ 市民アンケート・関係者ヒアリング調査の実施 ・ 社会実験の実施等

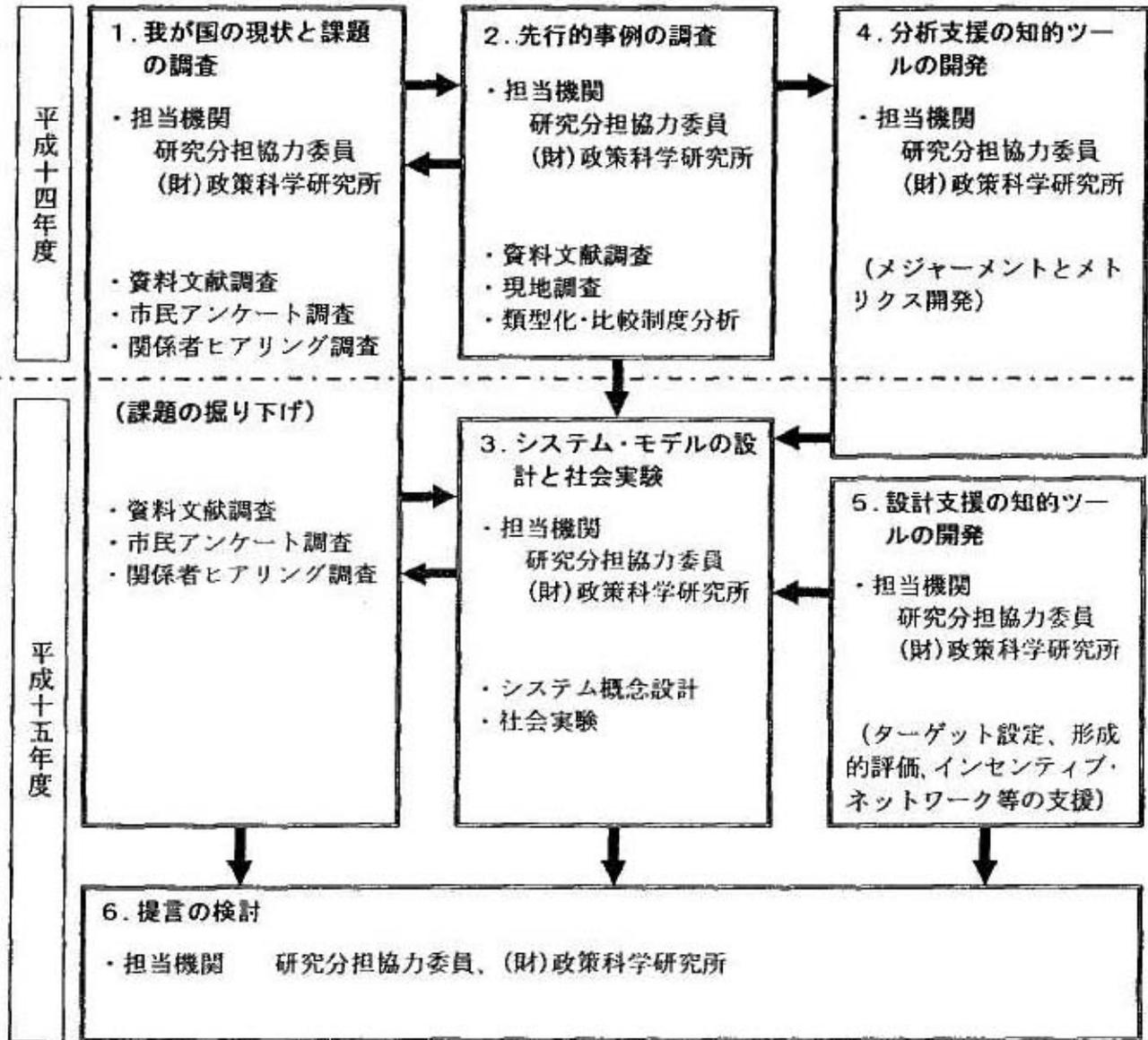
調査研究により期待される提言

本調査研究による提言として次のようなものが期待される。

- ・ 「需要」側からの政策展開で取り組みが要請されている「政策課題内容」の提言
- ・ 「需要」側からの政策展開のための「政策手段」とその「条件・環境」整備の提言
- ・ 政策過程を支援する知的ツール(分析・設計)の開発課題と研究推進策の提言
- ・ 「需要」側の関連アクターの育成やメディアの役割等に対する提言

- 調査研究課題名 「「需要」側からの科学技術政策の展開」
 ○代表者名 「政策研究大学院大学教授 丹羽富士雄」
 ○中核機関名 「財団法人 政策科学研究所」

「「需要」側からの科学技術政策の展開」



期待される提言

- (1) 「需要」側からの政策形成・実施が望まれる課題分野の提起
- (2) 「需要」側からの政策形成・実施を支援する政策手段・制度およびこれらが機能する条件・環境の整備施策の提言
- (3) 「需要」側からの政策展開過程を支援する知的ツール(分析・設計)の開発課題と研究開発推進・普及施策の提言
- (4) 「需要」側からの政策展開に関連する各アクターに対する提言